NEC Express5800シリーズ
Express5800/i110Rc-1h

# 3

# システム設定の変更

マザーボードの入力システムの設定方法について説明します。

本装置を導入したときやオプションの増設/取り外しをするときはここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

**システムBIOS（SETUP）のセットアップ（32ページ）**

本装置の基本入出力システムのセットアップをするためのユーティリティ「SETUP」の使用方法と各種パラメータについて説明します。また、内蔵のCMOSに保存されたSETUPの設定値をクリアするジャンパピンの設定についても併せて説明します。

**割り込みライン（59ページ）**

マザーボードの割り込みの設定について説明しています。

# システムBIOS（SETUP）のセットアップ

Basic Input Output System（BIOS）の設定方法について説明します。

本装置を導入したときやオプションの増設/取り外しをするときはここで説明する内容をよく理解して、正しく設定してください。

SETUPはハードウェアの基本設定をするためのユーティリティツールです。このユーティリティは本体内のフラッシュメモリに標準でインストールされているため、専用のユーティリティなどがなくても実行できます。

SETUPで設定される内容は、出荷時に最も標準で最適な状態に設定していますのでほとんどの場合においてSETUPを使用する必要はありませんが、この後に説明するような場合など必要に応じて使用してください。

重要

- **SETUPの操作は、システム管理者（アドミニストレータ）が行ってください。**
- **SETUPでは、パスワードを設定することができます。パスワードには、「Supervisor」と「User」の2つのレベルがあります。「Supervisor」レベルのパスワードでSETUPを起動した場合、すべての項目の変更ができます。「Supervisor」のパスワードが設定されている場合、「User」レベルのパスワードでは、設定内容を変更できる項目が限られます。**
- **OS（オペレーティングシステム）をインストールする前にパスワードを設定しないでください。**
- **SETUPは、最新のバージョンがインストールされています。このため設定画面が本書で説明している内容と異なる場合があります。設定項目については、オンラインヘルプを参照するか、保守サービス会社に問い合わせてください。**
- **SETUPはExitメニューまたは<Esc>、<F10>キーで必ず終了してください。SETUPを起動した状態でパワーオフ、リセットを行った場合にはSETUPの設定が正しく更新されないことがあります。**

# 起　動

本体の電源をONにするとディスプレイ装置の画面にPOST（Power On Self-Test）の実行内容が表示されます。「NEC」ロゴが表示された場合は、<Esc>キーを押してください。

しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

```
Press <F2> to enter SETUP
```

ここで<F2>キーを押すと、SETUPが起動してMainメニュー画面を表示します。

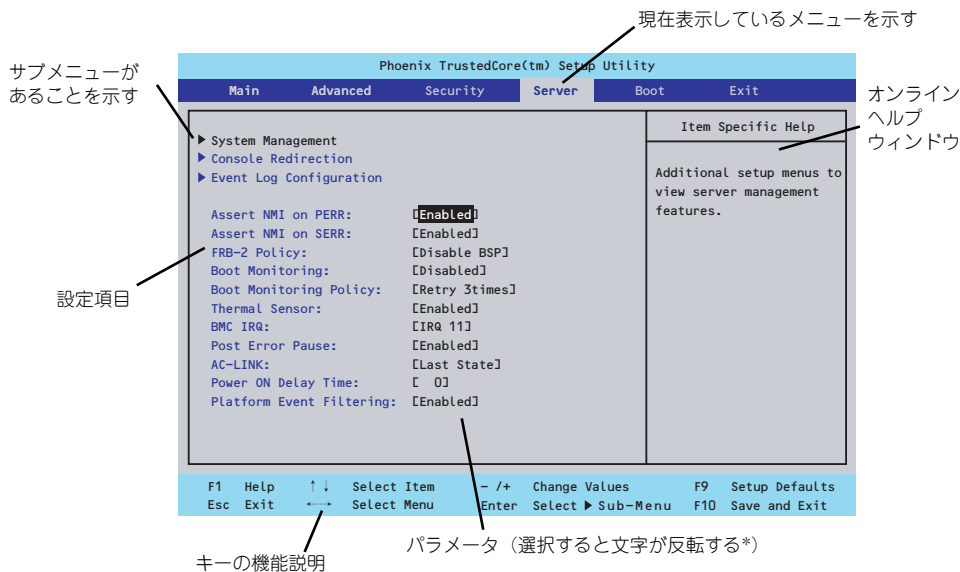
以前にSETUPを起動してパスワードを設定している場合は、パスワードを入力する画面が表示されます。パスワードを入力してください。

```
Enter password [                    ]
```

パスワードの入力は、3回まで行えます。3回とも誤ったパスワードを入力すると、本装置は動作を停止します（これより先の操作を行えません）。電源をOFFにしてください。

パスワードには、「Supervisor」と「User」の2種類のパスワードがあります。「Supervisor」では、SETUPでのすべての設定の状態を確認したり、それらを変更したりすることができます。「User」では、確認できる設定や、変更できる設定に制限があります。

# キーと画面の説明

キーボード上の次のキーを使ってSETUPを操作します（キーの機能については、画面下にも表示されています）。

＊　自動的にコンフィグレーションされたものや検出されたもの、情報の表示のみやパスワードの設定により変更が許可されていない項目はグレーアウトされた表示になります。

□　カーソルキー（↑、↓）
画面に表示されている項目を選択します。文字の表示が反転している項目が現在選択されています。

□　カーソルキー（←、→）
MainやAdvanced、Security、Server、Boot、Exitなどのメニューを選択します。

□　<－>キー／<＋>キー
選択している項目の値（パラメータ）を変更します。サブメニュー（項目の前に「▶」がついているもの）を選択している場合、このキーは無効です。

□　<Enter>キー
選択したパラメータの決定を行うときに押します。

□　<Esc>キー
ひとつ前の画面に戻ります。また値を保存せずにSETUPを終了します。

□　<F9>キー
現在表示している項目のパラメータをデフォルトのパラメータに戻します（出荷時のパラメータと異なる場合があります）。

□　<F10>キー
SETUPの設定内容を保存し、SETUPを終了します。

# 設定例

次にソフトウェアと連携した機能や、システムとして運用するときに必要となる機能の設定例を示します。

## 日付・時刻関連

「Main」→「System Time」、「System Date」

## 管理ソフトウェアとの連携関連

### 「ESMPRO/ServerManager」を使ってネットワーク経由で本体の電源を制御する

「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On LAN/PME」→「Enabled」

## UPS関連

### UPSと電源連動（リンク）させる

- UPSから電源が供給されたら常に電源をONさせる
  「Server」→「AC-LINK」→「Power On」
- POWERスイッチを使ってOFFにしたときは、UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする
  「Server」→「AC-LINK」→「Last State」
- UPSから電源が供給されても電源をOFFのままにする
  「Server」→「AC-LINK」→「Stay Off」

## 起動関連

### 本体に接続している起動デバイスの順番を変える

「Boot」→起動順序を設定する

### POSTの実行内容を表示する

「Advanced」→「Boot-time Diagnostic Screen」→「Enabled」
「NEC」ロゴの表示中に<Esc>キーを押しても表示させることができます。

### リモートトウェイクアップ機能を利用する

| | |
|---|---|
| LANから： | 「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On LAN/PME」→「Enabled」 |
| PCIデバイスから： | 「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On LAN/PME」→「Enabled」 |
| RTCのアラームから： | 「Advanced」→「Advanced Chipset Control」→「Wake On RTC Alarm」→「Enabled」 |

### HWコンソール端末から制御する

「Server」→「Console Redirection」→それぞれの設定をする

## メモリ関連

### 搭載しているメモリ(DIMM）の状態を確認する

「Advanced」→「Memory Configuration」→「DIMM #n Status」→ 表示を確認する(n: 1～2)

### メモリ(DIMM）のエラー情報をクリアする

「Advanced」→「Memory Configuration」→「Memory Retest」→ 「Yes」→再起動するとクリアされる

## CPU関連

### 搭載しているCPUの状態を確認する

「Main」→「Processor Settings」→ 表示を確認する

画面に表示されているCPU番号とマザーボード上のソケットの位置は上図のように対応しています。

### CPUのエラー情報をクリアする

「Main」→「Processor Settings」→「Processor Retest」→「Yes」→ 再起動するとクリアされる

## キーボード関連

### Numlockを設定する

「Advanced」→「NumLock」→「On」(有効) /「Off」(無効：初期値)

## イベントログ関連

### イベントログをクリアする

「Server」→「Event Log Configuration」→「Clear All Event Logs」→「Enter」→「Yes」

## セキュリティ関連

### BIOSレベルでのパスワードを設定する

「Security」→「Set Supervisor Password」→ パスワードを入力する
管理者パスワード（Supervisor)、ユーザーパスワード（User）の順に設定します

## 外付けデバイス関連

### I/Oポートに対する設定をする

「Advanced」→「Peripheral Configuration」→ それぞれのI/Oポートに対して設定をする

## 内蔵デバイス関連

**本装置内蔵のPCIデバイスに対する設定をする**

「Advanced」→「PCI Configuration」→ それぞれのデバイスに対して設定をする

**ディスクアレイコントローラボードを取り付ける**

「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot n Option ROM」→「Enabled」
n:　PCIスロットの番号

**ハードウェアの構成情報をクリアする（内蔵デバイスの取り付け/取り外しの後）**

「Advanced」→「Reset Configuration Data」→「Yes」→再起動するとクリアされる

## 設定内容のセーブ関連

**BIOSの設定内容を保存する**

「Exit」→「Exit Saving Changes」

**変更したBIOSの設定を破棄する**

「Exit」→「Exit Discarding Changes」または「Discard Changes」

**BIOSの設定をデフォルトの設定に戻す（出荷時の設定とは異なる場合があります）**

「Exit」→「Load Setup Defaults」

**現在の設定内容を保存する**

「Exit」→「Save Changes」

**現在の設定内容をカスタムデフォルト値として保存する**

「Exit」→「Save Custom Defaults」

**カスタムデフォルト値をロードする**

「Exit」→「Load Custom Defaults」

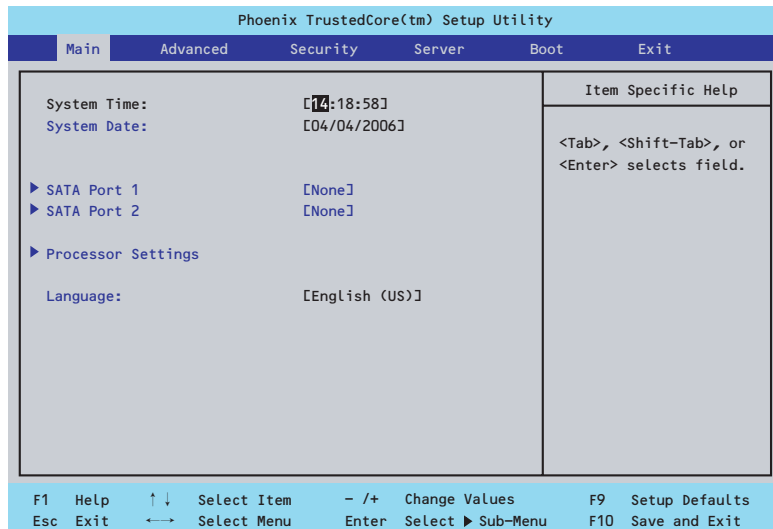
# パラメータと説明

SETUPには大きく6種類のメニューがあります。

- **Mainメニュー（→39ページ）**
- **Advancedメニュー（→41ページ）**
- **Securityメニュー（→47ページ）**
- **Serverメニュー（→49ページ）**
- **Bootメニュー（→54ページ）**
- **Exitメニュー（→55ページ）**

このメニューの中からサブメニューを選択することによって、さらに詳細な機能の設定ができます。次に画面に表示されるメニュー別に設定できる機能やパラメータ、出荷時の設定を説明します。

# Main

SETUPを起動すると、はじめにMainメニューが表示されます。項目の前に「▶ 」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

Mainメニューの画面上で設定できる項目とその機能を示します。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| System Time | HH:MM:SS | 時刻の設定をします。 |
| System Date | MM/DD/YYYY | 日付の設定をします。 |
| SATA Port 1<br>SATA Port 2 | — | それぞれのチャネルに接続されているデバイスの情報をサブメニューで表示します。<br>一部設定を変更できる項目がありますが、出荷時の設定のままにしておいてください。 |
| Processor Settings | — | プロセッサ(CPU)に関する情報や設定をする画面を表示します（40ページ参照）。 |
| Language | [English (US)]<br>Français<br>Deutsch<br>Español<br>Italiano | SETUPで表示する言語を選択します。 |

[ ]: 出荷時の設定

**BIOSのパラメータで時刻や日付の設定が正しく設定されているか必ず確認してください。次の条件に当てはまる場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。**

- **装置の輸送後**
- **装置の保管後**
- **装置の動作を保証する環境条件（温度：10℃～35℃・湿度：20%～80%）から外れた条件下で休止状態にした後**

**システム時計は毎月1回程度の割合で確認してください。また、高い時刻の精度を要求するようなシステムに組み込む場合は、タイムサーバ（NTPサーバ）などを利用して運用することをお勧めします。**
**システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。**

## Processor Settingsサブメニュー

Mainメニューで「Processor Settings」を選択すると、以下の画面が表示されます。

```
Phoenix TrustedCore(tm) Setup Utility
Main
Processor Settings                                 Item Specific Help

Processor Retest:               [No]               Select 'Yes' , BIOS will
                                                   clear historical
Processor Speed Setting:        3000 MHz           processor status and
                                                   retest all processors
Processor 1 CPUID:              06F5               on next boot.
Processor 1 L2 Cache:           1024 KB

Execute Disable Bit:            [Disabled]
Intel(R) Virtualization Tech:   [Disabled]
C1 Enhanced Mode:               [Disabled]
Enhanced Intel SpeedStep(K) Tech: [Disabled]

F1  Help   ↑↓  Select Item   -/+   Change Values        F9  Setup Defaults
Esc Exit   ←→  Select Menu   Enter Select ▶ Sub-Menu    F10 Save and Exit
```

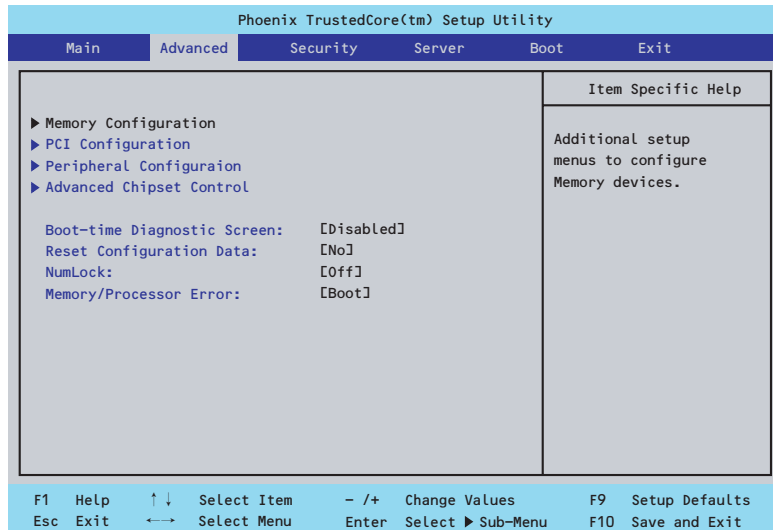
項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Processor Retest | [No]<br>Yes | プロセッサのエラー情報をクリアし、次回起動時にすべてのプロセッサに対してテストを行います。このオプションは次回起動後に自動的に「No」に切り替わります。 |
| Processor Speed Setting | — | 搭載しているプロセッサのクロック速度を表示します。 |
| Processor 1 CPU ID | 数値(0xxx)<br>Disabled<br>Not Installed | 数値の場合はプロセッサ1のIDを示します。「Disabled」はプロセッサの故障、「Not Installed」は取り付けられていないことを示します（表示のみ）。 |
| Processor 1 L2 Cache | — | プロセッサ1の二次キャッシュサイズを表示します（表示のみ）。 |
| Execute Disable Bit | [Disabled]<br>Enabled | Execute Disable Bit機能をサポートしているCPUのみ表示されます。この機能を使用するかどうかを設定します。 |
| Intel(R) Virtualization Tech | [Disabled]<br>Enabled | インテルプロセッサーが提供する「仮想化技術」の機能の有効/無効を設定します。 |
| C1 Enhanced Mode | [Disabled]<br>Enabled | C1ステート拡張モード機能の有効／無効を設定します。 |
| Enhanced Intel SpeedStep(K)Tech | [Disabled]<br>Enabled | Enhanced Intel SpeedStep(K) Tech機能をサポートしているCPUのみ表示されます。この機能を使用するかどうかを設定します。 |

[　]: 出荷時の設定

# Advanced

カーソルを「Advanced」の位置に移動させると、Advancedメニューが表示されます。

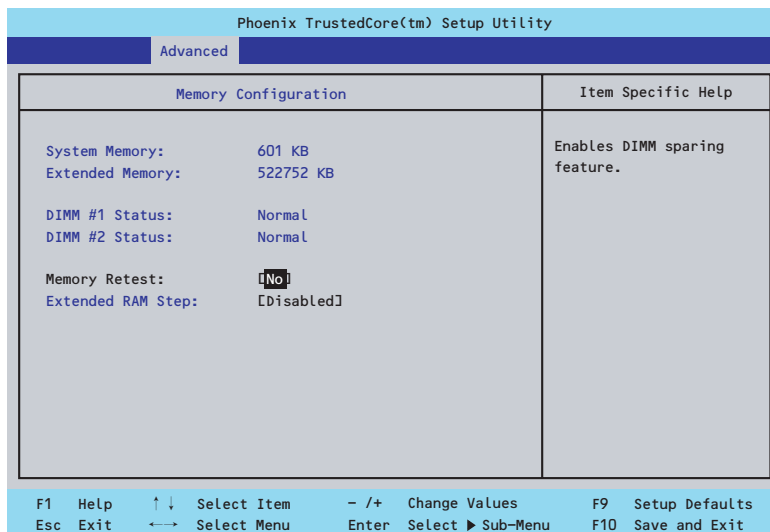
項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Boot-time Diagnostic Screen | [Disabled]<br>Enabled | 「Enabled」に設定すると、POSTの内容を画面に表示します。「Disabled」に設定するとNECロゴでPOSTの表示を隠します。Console Redirection中は「Disabled」に設定できません。 |
| Reset Configuration Data | [No]<br>Yes | Configuration Data(POSTで記憶しているシステム情報)をクリアするときは「Yes」に設定します。装置の起動後にこのパラメータは「No」に切り替わります。 |
| NumLock | On<br>[Off] | システム起動時にNumlockの有効/無効を設定します。 |
| Memory/Processor Error | [Boot]<br>Halt | POSTでメモリまたはプロセッサに異常を検出した際のPOST終了後の動作を選択します。「Boot」でオペレーティングシステムをそのまま起動します。「Halt」で動作を停止します。 |

[　]: 出荷時の設定

**Reset Configuration Dataを「Yes」に設定すると、ブートデバイスの情報もクリアされます。Reset Configuration Dataを「Yes」に設定する前に、必ず設定されているブートデバイスの順番を記録し、Exit Saving Changesで再起動後、BIOSセットアップメニューを起動して、ブートデバイスの順番を設定し直してください。**

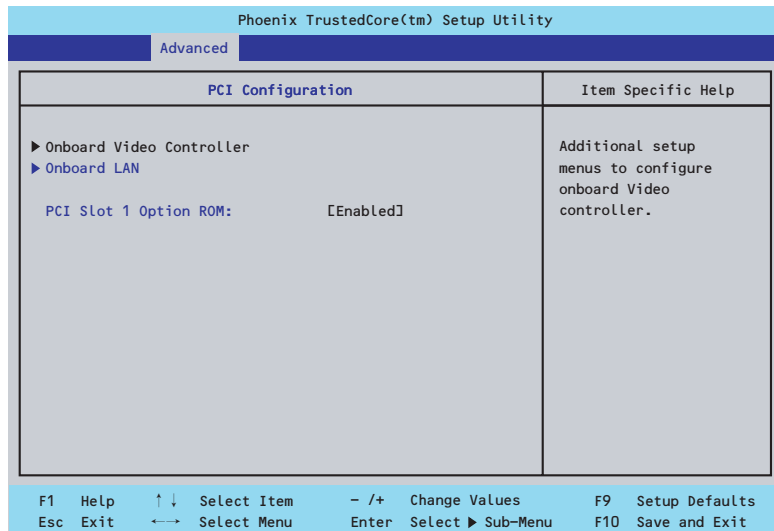
## Memory Configurationサブメニュー

Advancedメニューで「Memory Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| System Memory | ― | 基本メモリの容量を表示します。 |
| Extended Memory | ― | 拡張メモリの容量を表示します。 |
| DIMM #1 - #2 Status | Normal<br>Disabled<br>Not Installed | メモリの現在の状態を表示します。「Normal」はメモリが正常であることを示します。「Disabled」は故障していることを、「Not Installed」はメモリが取り付けられていないことを示します（表示のみ）。 |
| Memory Retest | [No]<br>Yes | メモリのエラー情報をクリアし、次回起動時にすべてのDIMMに対してテストを行います。このオプションは次回起動後に自動的に「No」に切り替わります。 |
| Extended RAM Step | 1MB<br>1KB<br>Every Location<br>[Disabled] | 「1MB」は1M単位にメモリテストを行います。「1KB」は1K単位にメモリテストを行います。「Every Location」はすべてにメモリテストを行います。メモリテスト中はスペースキーのみ有効となり<F2>、<F4>、<F12>、<Esc>キーは無視されます。 |

［　］: 出荷時の設定

## PCI Configurationサブメニュー

Advancedメニューで「PCI Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。項目の前に「▶」がついているメニューは、選択して<Enter>キーを押すとサブメニューが表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| PCI Slot 1 Option ROM | [Enabled]<br>Disabled | PCIボード上のオプションROMの展開を有効にするか無効にするかを設定します。 |

[　]: 出荷時の設定

**ディスクアレイコントローラやLANボード(ネットワークブート)、Fibre Channelコントローラで、OSがインストールされたハードディスクドライブを接続しない場合は、そのPCIスロットのオプションROM展開を「Disabled」に設定してください。**

### Onboard Video Controllerサブメニュー

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Onboard VGA Control | Disabled<br>[Enabled] | オンボード上のビデオコントローラの有効/無効を設定します。 |

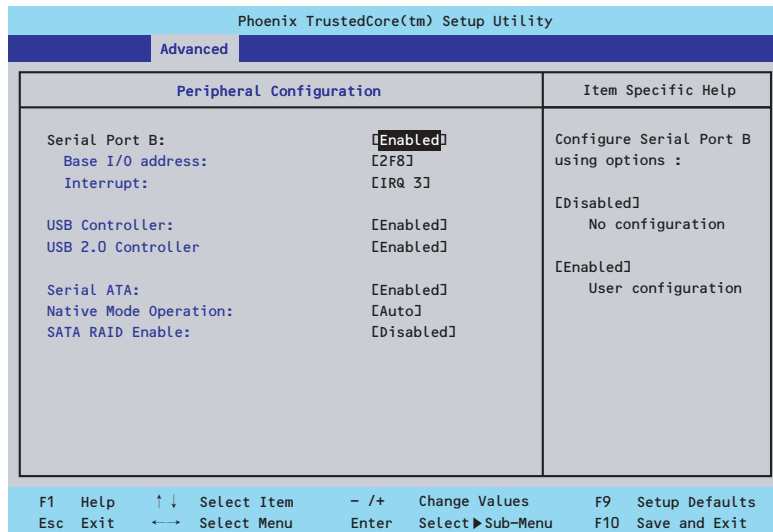
［　］: 出荷時の設定

### Onboard LANサブメニュー

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Onboard LAN1 Control | Disabled<br>[Enabled] | オンボード上のLANコントローラの有効/無効を設定します。 |
| Onboard LAN2 Control | Disabled<br>[Enabled] | オンボード上のLANコントローラの有効/無効を設定します。 |
| LAN1 Option ROM Scan | [Enabled]<br>Disabled | オンボード上のLANコントローラ1のBIOSの展開の有効/無効を設定します。 |
| LAN2 Option ROM Scan | [Enabled]<br>Disabled | オンボード上のLANコントローラ2のBIOSの展開の有効/無効を設定します。 |

［　］: 出荷時の設定

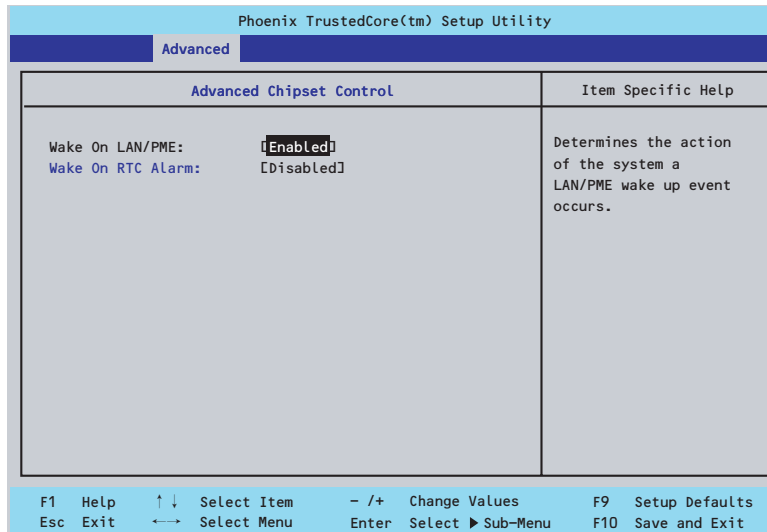
## Peripheral Configurationサブメニュー

Advancedメニューで「Peripheral Configuration」を選択すると、以下の画面が表示されます。

**割り込みベースI/Oアドレスが他と重複しないように注意してください。設定した値が他のリソースで使用されている場合は黄色の「＊」が表示されます。黄色の「＊」が表示されている項目は設定し直してください。**

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Serial Port B | Disabled<br>[Enabled] | シリアルポートBの有効/無効を設定します。 |
| Serial Port B<br>Base I/O address | 3F8<br>[2F8]<br>3E8<br>2E8 | シリアルポートBのためのベースI/Oアドレスを設定します。 |
| Serial Port B<br>Interrupt | [IRQ 3]<br>IRQ 4 | シリアルポートBのための割り込みを設定します。 |
| USB Controller | Disabled<br>[Enabled] | USB Deviceの有効/無効を設定します。 |
| USB 2.0 Controller | Disabled<br>[Enabled] | USB2.0の有効/無効を設定します。 |
| Serial ATA | Disabled<br>[Enabled] | マザーボード上のシリアルATAコントローラの有効/無効を設定します。 |
| Native Mode Operation | Auto<br>[Serial ATA] | Native Mode Deviceを選択することができます。 |
| SATA RAID Enable | [Disabled]<br>Enabled | オンボード上のSATAコントローラを使ったハードディスクドライブのRAID（ディスクアレイ）の有効/無効を設定します。<br>本装置は未サポートのため、設定を変更しないでください。<br>注：異なる設定でSATAハードディスクドライブから起動するとデータが壊れるおそれがあります。 |

[　]: 出荷時の設定

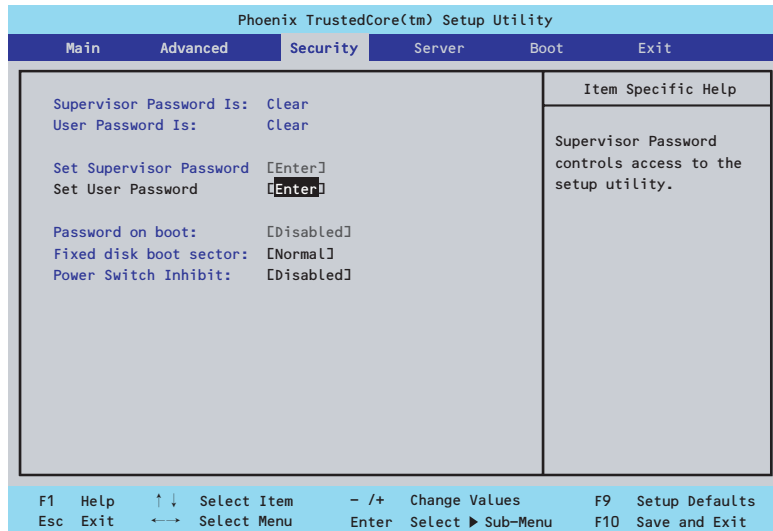
## Advanced Chipset Controlサブメニュー

Advancedメニューで「Advanced Chipset Control」を選択すると、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Wake On LAN/PME | Disabled<br>[Enabled] | 標準装備のネットワークまたはPCIデバイス(PCI Power ManagementをEnabledにするインベント)によるリモートパワーオン機能の有効/無効を設定します。 |
| Wake On RTC Alarm | [Disabled]<br>Enabled | リアルタイムクロックのアラーム機能を使ったリモートパワーオン機能の有効/無効を設定します。 |

[　]: 出荷時の設定

# Security

カーソルを「Security」の位置に移動させると、Securityメニューが表示されます。

Set Supervisor PasswordもしくはSet User Passwordのどちらかで<Enter>キーを押すとパスワードの登録/変更画面が表示されます。
ここでパスワードの設定を行います。

- **「User Password」は、「Supervisor Password」を設定していないと設定できません。**
- **OSのインストール前にパスワードを設定しないでください。**
- **パスワードを忘れてしまった場合は、お買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。**

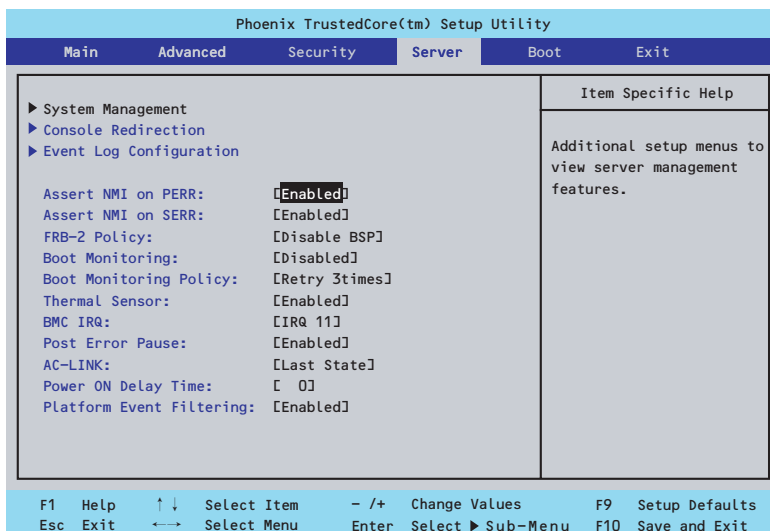
各項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Supervisor Password Is | Clear<br>Set | スーパーバイザパスワードが設定されているかどうかを示します（表示のみ）。 |
| User Password Is | Clear<br>Set | ユーザーパスワードが設定されているかどうかを示します（表示のみ）。 |
| Set Supervisor Password | 8文字までの英数字 | <Enter>キーを押すとスーパーバイザのパスワード入力画面になります。このパスワードですべてのSETUPメニューにアクセスできます。この設定は、SETUPを起動したときのパスワードの入力で「Supervisor」でログインしたときのみ設定できます。 |
| Set User Password | 8文字までの英数字 | <Enter>キーを押すとユーザーのパスワード入力画面になります。このパスワードではSETUPメニューのアクセスに制限があります。この設定は、SETUPを起動したときのパスワードの入力で「Supervisor」でログインしたときのみ設定できます。 |

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Password on boot | [Disabled]<br>Enabled | 起動時にパスワードの入力を行う/行わないの設定をします。先にスーパバイザのパスワードを設定する必要があります。もし、スーパーバイザのパスワードが設定されていて、このオプションが無効の場合はBIOSはユーザーが起動していると判断します。 |
| Fixed disk boot sector | [Normal]<br>Write Protect | IDEハードディスクドライブに対する書き込みを防ぎます。本装置ではIDEハードディスクドライブをサポートしていません。 |
| Power Switch Inhibit | [Disabled]<br>Enabled | パワースイッチの機能を有効にするか無効にするかを設定します。<br>なお、強制電源OFF（4秒押し）は無効にできません。 |

[　]: 出荷時の設定

# Server

カーソルを「Server」の位置に移動させると、Serverメニューが表示されます。

Serverメニューで設定できる項目とその機能を示します。「System Management」と「Console Redirection」、「Event Log Configuration」は選択後、<Enter>キーを押してサブメニューを表示させてから設定します。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Assert NMI on PERR | Disabled<br>[Enabled] | PCI PERRのサポートを設定します。 |
| Assert NMI on SERR | Disabled<br>[Enabled] | PCI SERRのサポートを設定します。 |
| FRB-2 Policy | Disable FRB2 Timer<br>[Disable BSP]<br>Do Not Disable BSP<br>Retry 3 Times | BSPでFRBレベル2のエラーが発生したときのプロセッサの動作を設定します。 |
| Boot Monitoring | [Disabled]<br>5 Minutes<br>10 Minutes<br>15 Minutes<br>20 Minutes<br>25 Minutes<br>30 Minutes<br>35 Minutes<br>40 Minutes<br>45 Minutes<br>50 Minutes<br>55 Minutes<br>60 Minutes | 起動監視機能の有効/無効とタイムアウトまでの時間を設定します。この機能を使用する場合は、ESMPRO/ServerAgentをインストールしていないOSから起動する場合には、この機能を無効にしてください。 |

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Boot Monitoring Policy | [Retry 3 Times]<br>Retry Service Boot<br>Always Reset | 起動監視時にタイムアウトが発生した場合の処理を設定します。<br>[Retry 3 Times]に設定すると、タイムアウトの発生後にシステムをリセットし、OS起動を3回まで試みます。<br>[Retry Service Boot]に設定すると、タイムアウト発生後にシステムをリセットし、OS起動を3回まで試行します。その後、サービスパーティション*から起動を3回試み、3回とも失敗した場合は起動を停止します。<br>[Always Reset]に設定すると、タイムアウト発生後にOS起動を常に試みます。<br>* システムにサービスパーティションが存在しない場合は、システムパーティションからOS起動を無限に試みます。 |
| Thermal Sensor | Disabled<br>[Enabled] | 温度センサ監視機能の有効/無効を設定します。有効にすると、温度の異常を検出した場合にPOSTの終わりでいったん停止します。 |
| BMC IRQ | Disabled<br>[IRQ 11] | BMC（ベースボードマネージメントコントローラ）に割り込みラインを割り当てるかどうかを選択します。 |
| Post Error Pause | Disabled<br>[Enabled] | POSTの実行中にエラーが発生した際に、POSTの終わりでPOSTをいったん停止するかどうかを設定します。 |
| AC-LINK | Stay Off<br>[Last State]<br>Power On | ACリンク機能を設定します。AC電源が再度供給されたときのシステムの電源の状態を設定します（下表参照）。 |
| Power ON Delay Time(Sec) | [0] - 255 | DC電源をONにするディレイ時間を0秒から255秒の間で設定します。AC-LINKで「Last State」または「Power On」に設定している場合に有効となります。 |
| Platform Event Filtering | Disabled<br>[Enabled] | BMC（ベースボードマネージメントコントローラ）の通報機能の有効/無効を設定します。 |

[　]: 出荷時の設定

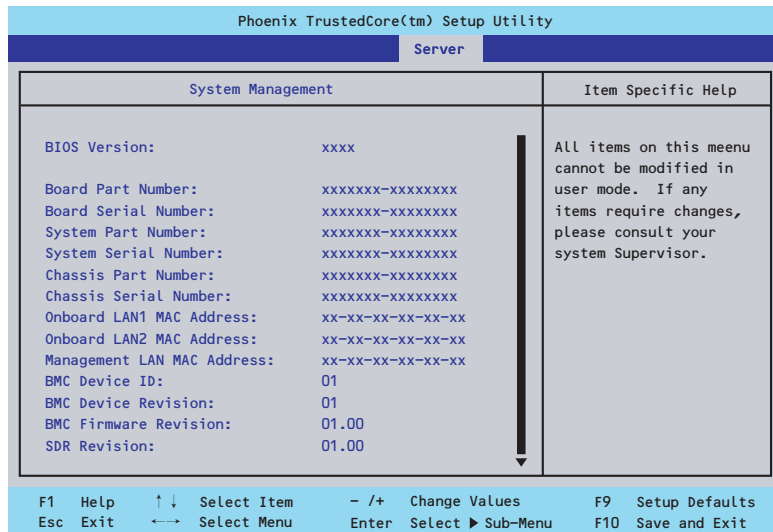
「AC-LINK」の設定と本装置のAC電源がOFFになってから再度電源が供給されたときの動作を次の表に示します。

| AC電源OFFの前の状態 | 設　定 | | |
|---|---|---|---|
| | Stay Off | Last State | Power On |
| 動作中 | Off | On | On |
| 停止中（DC電源もOffのとき） | Off | Off | On |
| 強制電源OFF* | Off | Off | On |

* POWERスイッチを4秒以上押し続ける操作です。強制的に電源をOFFにします。

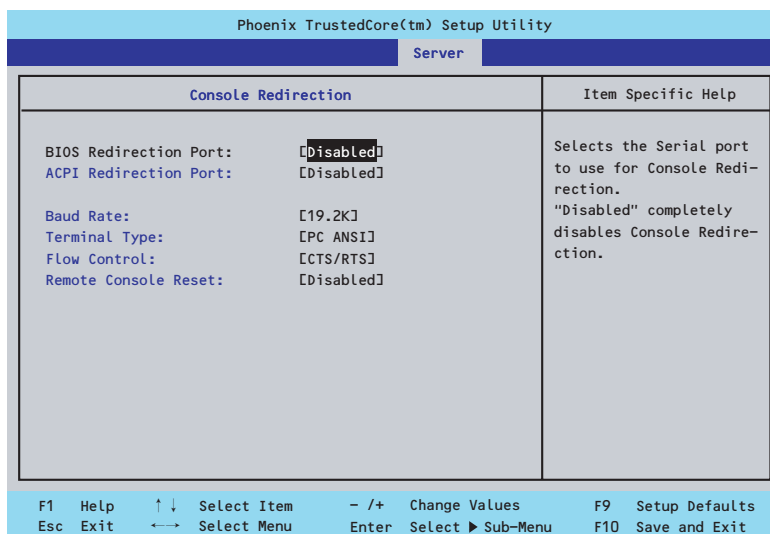
**無停電電源装置（UPS）を利用して自動運転を行う場合は「AC-LINK」の設定を「Power On」にしてください。**

## System Managementサブメニュー

Serverメニューで「System Management」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| BIOS Version | ― | BIOSのバージョンを表示します（表示のみ）。 |
| Board Part Number | ― | 本装置のマザーボードの部品番号を表示します（表示のみ）。 |
| Board Serial Number | ― | 本装置のマザーボードのシリアル番号を表示します（表示のみ）。 |
| System Part Number | ― | 本装置のシステムの部品番号を表示します（表示のみ）。 |
| System Serial Number | ― | 本装置のシステムのシリアル番号を表示します（表示のみ）。 |
| Chassis Part Number | ― | 本装置の筐体の部品番号を表示します（表示のみ）。 |
| Chassis Serial Number | ― | 本装置の筐体のシリアル番号を表示します（表示のみ）。 |
| Onboard LAN1 MAC Address | ― | 標準装備のLANポート1のMACアドレスを表示します（表示のみ）。 |
| Onboard LAN2 MAC Address | ― | 標準装備のLANポート2のMACアドレスを表示します（表示のみ）。 |
| Management LAN MAC Address | ― | 管理用LANポートのMACアドレスを表示します（表示のみ）。 |
| BMC Device ID | ― | BMCのデバイスIDを表示します（表示のみ）。 |
| BMC Device Revision | ― | BMCのレビジョンを表示します（表示のみ）。 |
| BMC Firmware Revision | ― | BMCのファームウェアレビジョンを表示します（表示のみ）。 |
| SDR Revision | ― | センサデータレコードのレビジョンを表示します（表示のみ）。 |
| PIA Revision | ― | プラットフォームインフォメーションエリアのレビジョンを表示します（表示のみ）。 |

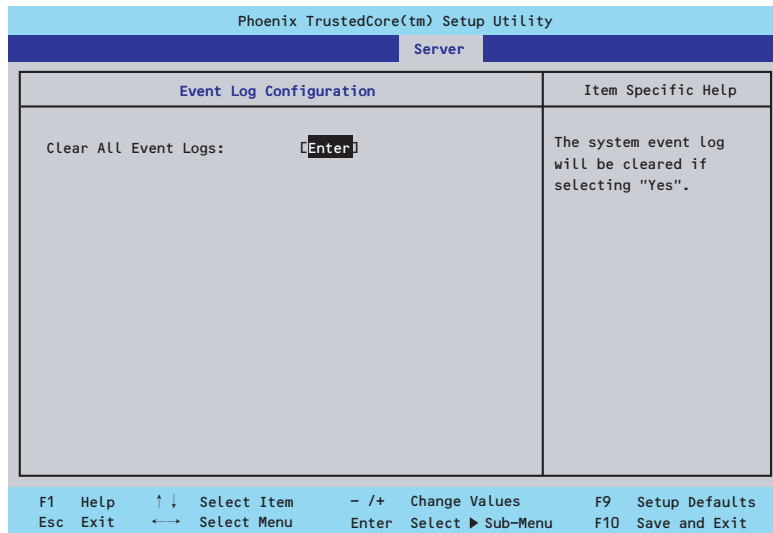
## Console Redirectionサブメニュー

Serverメニューで「Console Redirection」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| BIOS Redirection Port | [Disabled]<br>Serial Port B | このメニューで設定したシリアルポートからDianaScopeやハイパーターミナルを使った管理端末からのダイレクト接続を有効にするか無効にするかを設定します。 |
| ACPI Redirection Port | [Disabled]<br>Serial Port B | OS動作中にACPIコンソールを接続するシリアルポートを設定します。 |
| Baud Rate | 9600<br>[19.2K]<br>38.4K<br>57.6K<br>115.2K | 接続するハードウェアコンソールとのインタフェースに使用するボーレートを設定します。 |
| Terminal Type | [PC ANSI]<br>VT 100+<br>VT-UTF8 | ターミナル端末の種別を選択します。 |
| Flow Control | None<br>XON/XOFF<br>[CTS/RTS]<br>CTS/RTS + CD | フロー制御の方法を設定します。 |
| Remote Console Reset | [Disabled]<br>Enabled | 接続しているハードウェアコンソールから送信されたエスケープコマンド（Esc R）によるリセットを有効にするかどうかを選択します。 |

[　]: 出荷時の設定

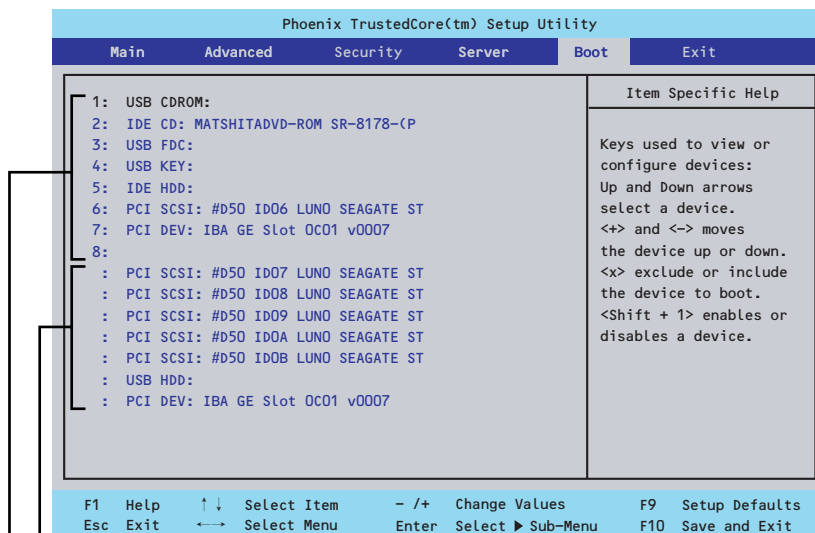
## Event Log Configurationサブメニュー

Serverメニューで「Event Log Configuration」を選択し、<Enter>キーを押すと、以下の画面が表示されます。

項目については次の表を参照してください。

| 項　目 | パラメータ | 説　明 |
|---|---|---|
| Clear All Event Logs | Enter | <Enter>キーを押すと確認画面が表示され、「Yes」を選ぶと保存されているエラーログを初期化します。 |

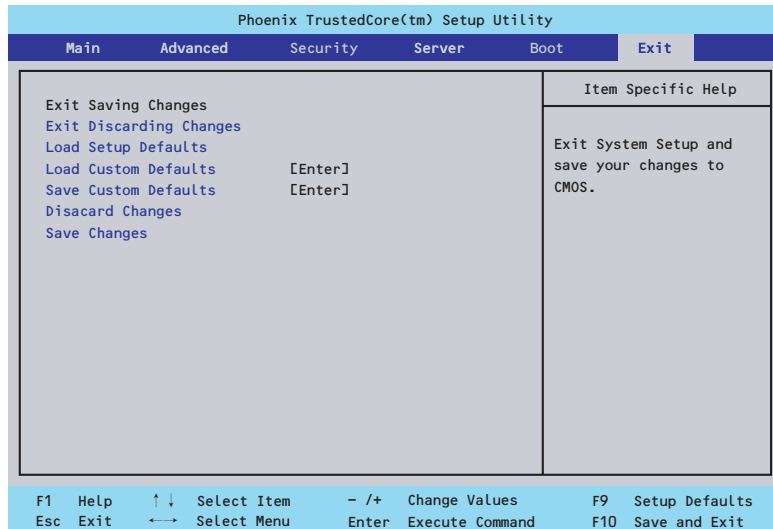
[　]: 出荷時の設定

# Boot

カーソルを「Boot」の位置に移動させると、起動順位を設定するBootメニューが表示されます。

| 表示項目 | デバイス |
|---|---|
| USB CDROM | USB CD-ROMドライブ |
| IDE CD | ATAPIのCD-ROMドライブ |
| USB FDC | USBフロッピーディスクドライブ |
| USB KEY | USBフラッシュメモリなど |
| IDE HDD | ハードディスクドライブ |
| PCI SCSI | ハードディスクドライブ |
| PCI DEV | IBA GE Slot xxxx：本体標準装備のLAN。「Slot 0C00」がLAN1、「Slot 0C01」がLAN2を表します。<br>その他の表示：本体のライザーカードに接続されているオプションのPCIボード。 |

1. BIOSは起動可能なデバイスを検出すると、該当する表示項目にそのデバイスの情報を表示します。
   メニューに表示されている任意のデバイスから起動させるためにはそのデバイスを起動デバイスとして登録する必要があります（最大8台まで）。
2. デバイスを選択後して<X>キーを押すと、選択したデバイスを起動デバイスとして登録／解除することができます。
   最大8台の起動デバイスを登録済みの場合は<X>キーを押しても登録することはできません。現在の登録済みのデバイスから起動しないものを解除してから登録してください。
   また選択後に<Shift>キーを押しながら、<1>キーを押すと選択したデバイスを有効／無効にすることができます。
3. <↑>キー／<↓>キーと<+>キー／<−>キーで登録した起動デバイスの優先順位（1位から8位）を変更できます。
   各デバイスの位置へ<↑>キー／<↓>キーで移動させ、<+>キー／<−>キーで優先順位を変更できます。

# Exit

カーソルを「Exit」の位置に移動させると、Exitメニューが表示されます。

このメニューの各オプションについて以下に説明します。

## Exit Saving Changes

新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存してSETUPを終わらせる時に、この項目を選択します。Exit Saving Changesを選択すると、確認画面が表示されます。ここで、「Yes」を選ぶと新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存してSETUPを終了し、自動的にシステムを再起動します。

## Exit Discarding Changes

新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存しないでSETUPを終わらせたい時に、この項目を選択します。
次に「Save before exiting?」の確認画面が表示され、ここで、「No」を選択すると、変更した内容をCMOSメモリ内に保存しないでSETUPを終了し、ブートへと進みます。「Yes」を選択すると変更した内容をCMOSメモリ内に保存してSETUPを終了し、自動的にシステムを再起動します。

### Load Setup Defaults

SETUPのすべての値をデフォルト値に戻したい時に、この項目を選択します。Load Setup Defaultsを選択すると、確認画面が表示されます。
ここで、「Yes」を選択すると、SETUPのすべての値をデフォルト値に戻してExitメニューに戻ります。「No」を選択するとExitメニューに戻ります。

- **モデルによっては、出荷時の設定とデフォルト値が異なる場合があります。この項で説明している設定一覧を参照して使用する環境に合わせた設定に直す必要があります。**
- **SATAハードディスクドライブモデルにおいてこのオプションを実行すると、「Advanced」の「Peripheral Configuration」メニューの「SATA RAID Enabled」が「Disabled」に設定されます。SATA内蔵ハードディスクドライブをディスクアレイで使用している場合は、SETUPを終了する前に「Enabled」に変更し、設定内容を保存してください。設定を変更せずに再起動するとハードディスクドライブのデータを壊すおそれがあります。**

「SATA RAID Enabled」メニューを表示させるには、「Advanced」メニューの「Peripheral Configuration」→「SATA Controller Mode Option」を「Enhanced」に設定してください。

### Load Custom Defaults

このメニューを選択して<Enter>キーを押すと、保存しているカスタムデフォルト値をロードします。カスタムデフォルト値を保存していない場合は、表示されません。

### Save Custom Defaults

このメニューを選択して<Enter>キーを押すと、現在の設定値をカスタムデフォルト値として保存します。保存すると「Load Custom Defaults」メニューが表示されます。

### Discard Changes

CMOSメモリに値を保存する前に今回の変更を以前の値に戻したい場合は、この項目を選択します。Discard Changesを選択すると確認画面が表示されます。
ここで、「Yes」を選ぶと新たに選択した内容が破棄されて、以前の内容に戻ります。

### Save Changes

新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存する時に、この項目を選択します。Saving Changesを選択すると、確認画面が表示されます。
ここで、「Yes」を選ぶと新たに選択した内容をCMOSメモリ（不揮発性メモリ）内に保存します。

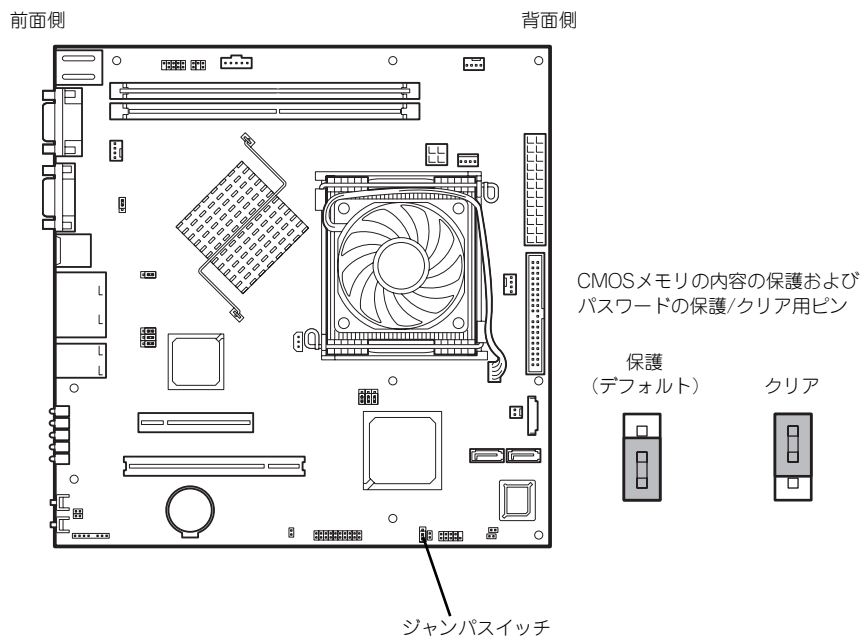
# CMOSメモリ・パスワードのクリア

本装置が持つセットアップユーティリティ「SETUP」では、本装置内部のデータを第三者から保護するために独自のパスワードを設定することができます。
万一、パスワードを忘れてしまったときなどは、ここで説明する方法でパスワードをクリアすることができます。
また、本装置のCMOSメモリに保存されている内容をクリアする場合も同様の手順で行います。

重要

- **CMOSメモリの内容をクリアするとSETUPの設定内容がすべてデフォルトの設定に戻ります。**
- **SASハードディスクドライブモデルにおいてCMOSメモリの内容をクリアすると、BIOS SETUPユーティリティの「Advanced」の「Peripheral Configuration」メニューの「SATA RAID」が「Disabled」に設定されます。SATA内蔵ハードディスクドライブをディスクアレイで使用している場合は、CMOSメモリのクリア後、BIOS SETUPユーティリティを起動して、上記設定を「Enabled」に変更し、設定内容を保存してください。設定を変更せずに起動するとハードディスクドライブのデータを壊すおそれがあります。**

パスワード/CMOSメモリのクリアはマザーボード上のコンフィグレーションジャンパスイッチを操作して行います。ジャンパスイッチは下図の位置にあります。

**その他のジャンパの設定は変更しないでください。本装置の故障や誤動作の原因となります。**

それぞれの内容をクリアする方法を次に示します。

**警告**

**装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。**

- **自分で分解・修理・改造はしない**
- **リチウムバッテリを取り外さない**
- **プラグを差し込んだまま取り扱わない**

**注意**

**装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。**

- **1人で持ち上げない**
- **中途半端に取り付けない**
- **カバーを外したまま取り付けない**
- **指を挟まない**
- **高温注意**
- **ラックが不安定な状態でデバイスをラックから引き出さない**
- **複数台のデバイスをラックから引き出した状態にしない**

1. 98ページを参照して準備をする。
2. 本体をラックから引き出す（24ページ参照）。
3. トップカバーを取り外す（100ページ参照）。
4. クリアしたい機能のジャンパスイッチの位置を確認する。
5. ジャンパスイッチの設定を変更する。

   前ページの図を参照してください。
6. 5秒ほど待って元の位置に戻す。
7. 取り外した部品を元に組み立てる。
8. 電源コードを接続して本体の電源をONにする。
9. <F2>キーを押してBIOS SETUPユーティリティを起動し、Exitメニューから「Load Setup Defaults」を実行する。

# 割り込みライン

割り込みラインは、出荷時に次のように割り当てられています。オプションを増設するときなどに参考にしてください。

| IRQ | 周辺機器（コントローラ） | IRQ | 周辺機器（コントローラ） |
|---|---|---|---|
| 0 | システムタイマ | 12 | マウス |
| 1 | キーボード | 13 | 数値演算プロセッサ |
| 2 | ― | 14 | プライマリIDE |
| 3 | COM 2シリアルポート | 15 | セカンダリIDE |
| 4 | COM 1シリアルポート | 16 | USB |
| 5 | PCI | 17 | VGA |
| 6 | ― | 18 | ― |
| 7 | PCI | 19 | USB |
| 8 | リアルタイムクロック | 30 | LAN1 |
| 9 | ACPI Compliant System | 31 | LAN2 |
| 10 | PCI | 49 | SAS1 |
| 11 | BMC IRQ | 51 | SAS2 |